

くいはまみんなの公園 代替公園

第3号

■第3回ワークショップを開催しました。

第2回のワークショップでは、代替公園の現地の状況を踏まえて、「どんな公園にしたいか」整備イメージを班ごとに話し合っ、班毎に発表しました。その結果、共通のイメージや、異なっている意見が見えてきました。
第3回ワークショップでは、第2回の班ごとの成果をもとに、事務局で作成した整備案に対し、動線や施設、植栽、運営管理などの視点から、より具体的な意見や、改善案を出し合いました。



■ワークショップのスケジュール

| | | |
|----------------|-------------------------|---------------------|
| 第1回 ワークショップ | 1月17日（木） 18：30～20：30 | 今の公園を確認しよう！ |
| 第2回 ワークショップ | 2月6日（水） 18：30～20：30 | みんなのイメージを形にしよう！ |
| 第3回 ワークショップ | 2月22日（金） 18：30～20：30 | みんなのイメージをひとつにまとめよう！ |
| 第4回 ワークショップ | 3月11日（月） 18：30～20：30 | みんなのイメージを確認しよう！ |

一般の方もワークショップの見学は可能です。

■赤班の検討結果



来園のきっかけとしての屋内遊び施設や遊具
ピオトープは線路側に、花壇はボランティア次第

- 全体
 - ・メイン通路の外に小さいサブの通路も欲しい。
 - ・新しい公園はアクセスが良くなるため、アピールをすれば利用率が上がる。特徴的であって訴求力のあるようにしたい。
- 駐車場・駐輪場
 - ・駐車場に併設して駐輪場もあった方がよい。
- 遊びの広場・遊具
 - ・来てもらえるきっかけづくりとして、屋内遊び施設を象徴的な位置づけとして、遊びの広場の中央に配置する。
 - ・例えば「電車の公園」として、施設デザインは電車をモチーフとする。電車の遊具も良い。車両をもらって子どもが遊べる状態で置いたら役立つのではないかな。
 - ・子どもの遊べる場所は、近隣に迷惑のかからない場所にした。ダスト舗装ではなく土のまま木を植えて、子どもが自然に触れるような状態にしたい。
- ピオトープ・田んぼ
 - ・ピオトープは虫、鳥の害が、近隣の迷惑になるかもしれないので、線路側に移したい。
 - ・畑については、土のある日あたりの良い場所に移した方が管理面でも良い。
- 花壇・畑
 - ・花壇の整備は、花を育てるボランティアが見つかるかどうかによる。見つからなければあきらめて、舗装などにしてしまった方がきれいではないか。
- 植栽
 - ・住居側は景観を遮らないように背が高くならず、花が咲いたりして人の関心を集めないように常緑樹にして、虫もつきにくい、樹種にする。常緑のマキなど。
 - ・今のみんなの公園にどんぐりのなるクヌギやコナラなどの苗木があるので、移植したい。

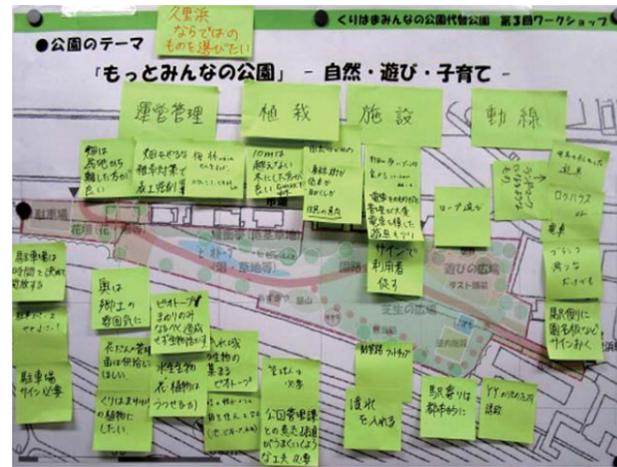
■青班の検討結果



年2回の市民参加型の運営会議を
健康遊具を置いてお年寄りの「憩い・安らぎ」の場に

- 全体
 - ・お年寄りが多いので、公園のテーマに「安らぎ」「憩い」を加えた。
 - ・ルールづくりやイベントの企画など、年に2回くらい公園運営について市民参加型で話し合える場(市民会議)があると良い。
 - ・おおまかなゾーニングとしては概ね提案の通り。
- 駐車場・駐輪場
 - ・一番奥に駐輪場を設けると、遊びの広場までが遠いため、駅側に機械式の駐輪場を設けた方がよい。
- 遊びの広場・遊具
 - ・ボール遊びのルールづくりが必要。線路との間に防球ネットを設ける。
 - ・遊具については、屋内遊び施設を設けて、そこに遊具があれば、屋外には不要ではないか。
 - ・屋外にはお年寄りが利用できる健康遊具を設置すると良い。
 - ・京急もしくはJRの古い電車を公園内に保存できると良い。
- ピオトープ・田んぼ
 - ・ピオトープはあった方がよいが、管理が難しいので運営方法を検討しなくてはならない。
 - ・田んぼは、塩分の問題もあるができればやれると良い。
- 花壇・畑
 - ・花壇は管理が大変なので、規模を小さくして、手がかけられないようにした方がよい。市民が利用できる畑も考えられる。
- 植栽
 - ・タブ、デイゴ、ムクロジ、ローズマリー、横須賀市の木である、オオシマザクラの他、子どもがどんぐりで工作できるよう、クヌギやマテバシイなども良い。

■緑班の検討結果



駅側は都会的に、奥は昔の久里浜の風景を
もとの公園から生きものを移したい

- 全体
 - ・基本的な配置は提案のまま。動線もこのパターンで良い。
 - ・駅側はきれいに整備された感じに、奥は昔の久里浜の雰囲気そのまま残っているような感じにしたい。
 - ・屋内遊び施設や電車の車両を設けるのであれば、管理人は必要。管理人がいれば管理方法は変わってくる。
 - ・園外に対し、公園に続く道や駐車場があるという看板が必要。
 - ・田んぼや畑は、近隣民家から離れた場所の方が良い。
- 駐車場・駐輪場
 - ・駐輪場は今と同じくらい（15台）ほしい。
- 遊具
 - ・電車と遊具が一体化したようなものをつくと、公園のシンボルになる。遊具があると、人の目に触れやすいから利用者が来やすい。
 - ・樹林にロープをわたして子どもたちが遊べるようにしたい。
- ピオトープ・田んぼ
 - ・ピオトープは、もとの公園にいる生き物を何とかもってきたい。新しい公園ができるまでどこで保存するかが課題。ピオトープだけ先に整備して生きものを保存しておけないか。
- 花壇・畑
 - ・きれいな花を植えるのは駅側で、奥の方には久里浜に昔からあった花を植えたい。
 - ・苗をもらえるなどのモチベーションが無いと続けにくい。多めに育てて地域に配れるようにするための、苗圃があると良い。
- 植栽
 - ・民家側の木は、植える前に民家と話し合いが必要。

■とりまとめ



- 基本ゾーニング
- 配慮事項
 - 隣接する民家への配慮：隣地と協議を行う。
 - ・緩衝緑地：景観を阻害しない。人が近づき過ぎない。虫がつきにくい、あまり大きくならない樹種。
 - ・ピオトープ：位置を変更して、近隣住宅から離す。
 - 公園を知ってもらう工夫
 - ・公園を特徴づける、公園のシンボルなる施設。
 - ・イベントがない日も、普段使いでも使いやすい公園。
- エントランスゾーン
 - ・花壇は、市民による管理体制ができるかによる。困難なら、花壇の規模を小さくして、舗装広場とする。
 - ・駅側に機械式の駐輪場を設けた方がよい。
- 子ども遊びのゾーン
 - ・公園のシンボルともなる屋内遊び施設を整備する。
 - ・電車の導入や、電車をモチーフとした遊具や各種施設のデザインによって「電車の公園」としてアピールする。
 - ・屋外にはお年寄りが利用できる健康遊具を設置すると良い。
 - ・ダスト舗装ではなく土のままの方がよい。
 - ・線路との間に防球ネットを設ける。
- 自然ふれあいゾーン
 - ・横須賀市の木であるオオシマザクラ、子どもがどんぐりで工作できるよう、クヌギやマテバシイなども良い。
 - ・ピオトープはあった方がよいが、運営方法を検討する。
 - ・ピオトープは、もとの公園にいる生き物をもってきたい。
- バックヤードゾーン
 - ・駐輪場は今と同じくらい（15台）ほしい。有料でよい。
- 管理運営
 - ・屋内遊び施設には管理人が常駐する。
 - ・ボール遊びのルールづくりが必要。
 - ・ルールづくりやイベントの企画など、年に2回くらい公園運営について市民参加型で話し合える場(市民会議)があると良い。